

卒業生の就職先に対する意見聴取の実施について

2025年9月

静岡産業大学

大学事務局キャリア支援課

はじめに

卒業生の就職先での現況や評価を探るためにアンケートを実施した。その一部を抜粋して、次のとおり公表する。

1. 実施概要

2025年8月26日（火）から9月18日（木）の期間で、194の企業・団体・機関に対して、アンケート（WEBフォームへの登録）への回答をEメールで依頼した。期間内に70の回答を得た。

2. 質問と回答 <一部を抜粋>

(1) 業種について

回答した企業・団体・業種の業種は、最も多かったのは卸売業（11.4%）、次いでサービス業（10%）、情報通信業（10%）、小売業（10%）、建設業（8%）と続いた。

(2) 職種について

卒業生が従事する最も多い職種は、営業職（45.7%）、事務職（21.4%）、製造・生産管理（18.6%）、その他（17.1%）、SE・プログラマー（8.6%）、販売・サービス職（8.6%）と続いた。

(3) 卒業生を採用したことに対する評価

卒業生を採用している企業・団体・機関の54.3%が「非常に満足」と回答した。また、32.9%が「どちらかと言えば満足」と回答した。

(4) 社会人として必要な能力について

回答した企業の多くが、卒業生が「熱意」、「主体性」、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション能力」、「ストレス耐性」、「柔軟性、適応力」を備えていると評価した。一方で「論理的思考力」、「高い教養」、「理解力」、「想像力」、「着眼点の良さ」に関しては、高い能力を備えていると答えた割合が低くなる傾向が見られた。

他の質問では多くの企業・団体・機関が「親和力」、「協働力」、「行動持続力」は“高いと感じる”と評価したが、「統率力」、「自信創出力」、「課題発見力」、「計画立案力」に関しては“低いと感じる”と評価した企業の方が多かった。

3. 総括

今回の意見聴取を行ったことで、“親和力”や“協働力”をはじめ、“人柄の良さ”や“仕事を真面目に取り組み、信頼される存在”として評価される姿が明らかになった。これは私たちが日頃、学生と接する中で感じてきた印象と共通するものであり、本学学生・卒業生の特徴のようなものと考えられる。

一方で、回答者がどのような卒業生を想定して回答したのか、当アンケートでは判別できないが、高い職位で求められるような企画を立案し、実行していくために必要な能力が、押し並べて低く評価されていることに衝撃を受けた。これは「静岡産業大学の卒業生は、担当者レベルでは“良い人材”だが、（管理監督者など）より高い職位で期待される役割や期待に、応えるだけの能力は備えていない。」と評価されていると解釈する

こともできるからだ。

既に本学では地域連携や課題解決型の授業や取り組みを通じて、社会で必要とされる力が身につく教育活動に取り組んできたが、こうした評価を改善していくためには、インプットだけではなく、学んだことをアプトプットしていく機会が、必要なのではないかと感じる。また、こうした能力を支えるために必要な汎用的・普遍的な能力や自己表現の手段として、恒常的な基礎学力の向上と読書啓発等の場が必要と考える。

以上